



No:451
2月号
創立142年

教育より鍛育

<http://www2.wakayama-wky.ed.jp/nagusa/>

教育より鍛育とか独育という言葉が好まれた時代があります。「学ぶ」はまねてする。似せてする。まねぶが語源です。子どもは大人の良いことも悪いこともまねをします。大人は子どもの手本にならないといけないのですが、現代の大人にその自覚・資格があるかと問われると内心・・・たるものがあります。

学習とは、まねて学び、繰り返し習います。稽古つまりトレーニングで身につけていくことです。江戸では、教育という言葉が好まれませんでした。代わりに養育とか鍛育という言い方を好みました。親にせよ、師匠にせよ、誰かが教え、育てるだけでは、必ず上下関係ができます。5歳までは親が面倒を見なければなりません、いつまでも教えたり、育てたりでは、親や師匠がいないと生きていけない過保護な人間ができてしまいます。

そこで、男女とも片手(数え年5歳)になると稚児のほうから自発的に師や親、兄弟姉妹、そして世間を見習わせ、見取らせるように仕向けたのだそうです。「見習い生」「見取り図」という言葉は江戸躰言葉の名残です。学習を「がくしゅう」と音読みするのではなく、江戸式訓読みで「まなびならう」と読んだそうです。

21世紀こそ、子どもたちにただ知識の暗記の詰め込み教育ではなく、ちょっと大げさかもしれませんが、自ら森羅万象を学んでいく意欲を与える新しい教育の知恵が必要な時ではないでしょうか。

時代をさかのぼり、江戸町衆は常に自分の頭で考え、自分の言葉で話し、自分で判断することができる人間として、自立を願っていたといわれています。そのため、養育・鍛育を日常的・計画的に時間をかけて実施していたようです。

その1つに4歳から9歳までの間に、盛んに姉や兄、両親、親戚、近所の大人たちが会話を仕掛けるそうです。

自分の頭で考え、自分の言葉で答えるように場を設定することは、今の時代とても大切なことだと痛感しています。

心の中の鬼

3学期が始まり、2学期に引き続き、なぐさっ子のインフルエンザの報告を受けていますが、寒いなか、運動場で元気に遊んでいる姿を見ると、ホッとした気持ちにもなり、元気をたくさんもらっています。

さて、2月の行事といえば、節分があります。文字通り季節の分かれ目という意味だそうです。節分では、「鬼は外 福は内」という掛け声とともに豆を撒き、撒いた豆を(数え年)歳の数だけ食べます。季節の変わり目には邪気(鬼)が生じると考えられており、それを追い払うために鬼に豆をぶつけることにより、邪気を追い払い、一年の無病息災を願うという意味合いがあるそうです。この機会に、私も自分に都合の良い心の鬼に豆をぶつけ、気持ちを新たに過ごしていきたいと思います。

(養護 大森麻里)

2月 行事

日	曜日	学校行事予定	日	曜日	学校行事予定
1	日	後期学校美術展・長距離選手権	19	木	授業参観日・学級懇談会
2	月	あいさつ運動(6年) 名草山登山(2・5年)	23	月	スクールカウンセラー来校
3	火	市立博物館見学(3年)	24	火	遠足(6年生お別れ)
4	水	委員会活動(5限)	25	水	クラブ(4年生見学)
5	木	名草山登山(1・6年)			
6	金	スクールカウンセラー来校 名草山登山(3・4年)			
7	土	市P役員研修会			
9	月	あいさつ運動(5年)			
11	水	祝日(建国記念の日)			
12	木	集団下校訓練・給食費振替日			
13	金	新入児説明会(交流室)			
16	月	あいさつ運動(4年)ALT			
18	水	委員会(5限)			

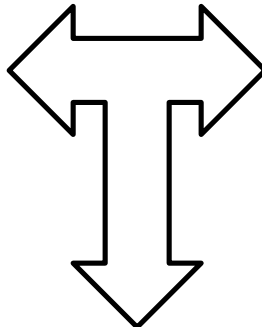


子ども・地域・保護者の連携



校務員さんが子どもが目につくところを整備してくれています。この花の周りに竹の柵をしてしてくれたのは、イノシシ被害から花を守るためです。

この花は、地域で花を育てている方からいただいたものです。いつも、朝の清掃時間に5年生の子どもがこの辺りをきれいにしてくれています。



児童会の頑張りに、地域の方や保護者が支援をしてくれています。

アルミ缶の回収後の保管場所の扉を地域の方がなおしてくれました。ペットボトル回収は、児童会で話し合って、環境に役立てようと考えてはじめてのことです。保護者の方々の協力もあり、子どもの活動が充実しています。 【家庭数配布】